

様式第3号(第12条関係)

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会
開催日時	令和7年12月19日(金) 13時30分～14時45分
開催場所	伊勢崎市上下水道局 会議室
出席者氏名	[委員] 熊倉委員長、平川副委員長、太田委員、木村委員、岩瀬委員、 江原委員、中田委員 [事務局] 柳澤上下水道局長、土屋総務課長、 小沼下水道施設課長、橋本治水課長、田中下水道整備課長、 齋藤下水道施設課伊勢崎浄化センター所長、松浪下水道施設課 施設管理係長、石崎下水道施設課施設改修係長、関口下水道整 備課下水道計画係長、藤倉下水道整備課工務係長、吹上下水道整 備課排水設備係長、糸井総務係長、小保方経理係長、 三上経理係長、南波料金係長、佐藤主査、遠山主査
傍聴人數	0名
会議の議題	・基本情報、現状認識について ・投資、財政計画について
会議資料の内容	・次第 ・伊勢崎市下水道事業経営戦略等検討委員会 委員名簿 ・席次表 ・資料 前回質問事項に関する資料 ・資料1 「基本情報・現状認識について」 ・資料2 「処理のしくみについて」 ・資料3 「公共下水道の整備状況について」

会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>【第2回検討委員会】</p> <p>1 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報・現状認識について <p>事務局から資料1「基本情報・現状認識について」資料2「処理の仕組みについて」資料3「公共下水道の整備状況について」に基づき説明があった。</p> <p>【質問・意見】</p> <p>委員長：まず基本情報・現状認識と投資財政計画とに大きく二つに分かれているので、分割をしてご質問やご意見を伺いたい。まず、下水道事業の基本情報について、下水道の仕組みや整備内容等についてご質問をお願いしたい。</p> <p>委員：汚水処理人口普及率が群馬県内にて伊勢崎市が27位というのに低い印象がある。順位を上げていけたら良いと思う。</p> <p>委員：三郷地区の住民としては、区画整理も終わり、平塚水質浄化センターも整備されたということで公共下水道が近い将来接続されるのではと期待していた。両毛線の高架事業の影響で接続が遅れたという説明があったが、高架事業も終わっている。本日の説明で事業が大変なことは理解したので、引き続き接続できる日を期待して待ちたい。</p> <p>委員長：公共下水道の接続が計画されている地域の方は、下水道が早く繋がることを期待している。行政の方はこのことを十分に把握し事業を進めてください。</p> <p>委員：公共下水道の計画区域内の住民で、未だ下水道が繋がっていない区域の方は、合併浄化槽のままではいけないのか。</p> <p>事務局：公共下水道事業の計画内の市民の方については、事業が進み、住んでいる地域に下水道が通った場合には、速やかな下水道接続のお願いをしている。助成制度もあるので、活用していただきながら、接続をお願いしている。計画の区域外の市民の方については、人口の密集していない区域ということで、離れた家屋を繋ぐ管路を整備する集合処理は不利となる。そのため、費用対効果も計算したうえで、個別処理の合併浄化槽にて汚水処理をお願いしている。</p> <p>委員長：行政とすると、公共下水道の整備・接続を促進する一方、合併浄化槽への切り替えも推奨していかなくてはならない。公共下水道の整備区域外で合併処理浄化槽を進めるということは、費用のこともあります、市民にとっては難しい面もある。下水道の普及を進めるうえで、公共下水道事業にプラスアルファの部分として、合併浄化槽への転換促進も当会議の中でも重点項目としておきましょう。市民全員で汚水処理普及を高めるという意識を醸</p>

成する必要がある。

委員長：続いて、今後の投資、財政計画についての部分でご意見を伺いたい。

委員：下水道整備は作ったら終わりではなく、ストックマネジメントの説明もあったが、維持修繕にも費用が大変かかる。今回の資料から、前回の経営戦略会議より費用が増加していることがよくわかる。近年は設備をどれだけ長持ちさせるのかも検討しなければならず、それらを考慮したうえでの費用増加だとも思う。大規模な事故が起きてしまった地域もあるが、点検や整備が追い付かなかつたことが原因だとも思われる。伊勢崎市はまだ新しい管渠を作らなければならず、整備、維持との両面で費用がかかる。地震や豪雨等の災害対策などが国の予算に大きな影響を与えていていると思うが、限られた財源の中で、市民生活にかかせない下水道整備の費用について、知恵を絞りながら、予算をかけてもらいたい。

委員長：物価高騰や災害対策等の懸念されている中、全国的な傾向はいかがか。

委員：埼玉県の事故を受けた緊急調査もあり、社会情勢として、インフラにかかる費用も増加傾向にあると考えている。今後の国の動向に注目している。

副委員長：災害対策において、雨水対策も重要となる。雨水整備においても大変費用がかかることは承知しているが、下水整備と一緒にすすめていただければと思う。

委員長：今後も費用の増加は見込まれるため、計画を隨時見直しながら事業を進めていく必要がある。

委員：大変大きな費用がかかるることはわかるが、これを全て市民が負担することは疑問を感じる。前回、国からの下水道整備の補助金が減少してしまう傾向にあると聞いたが、補助金をもっと活用することはできないのか。

事務局：国は令和8年度汚水処理概成を示しており、汚水処理人口普及率95%以上としている。国としては整備がほぼ終了していると判断しているため、整備にかかる補助金が減少傾向にある。

本市は今後も下水道整備を継続していくなかで、この減少傾向にある補助金について、国や県への予算要望は積極的に行っている。今年度についても県知事へ要望を提出し、また下水道協会を通じて国会議員への要望も行っている。

委員長：市民の声を積極的に国へ伝えていくことが大切。費用がかかることについて、国や県へ積極的に要望していくことを委員会としても主張したい。質問がなければ、次回の検討委員会で理解を深めていきたい。